

日本へ来た理由

K組 鄭 仕 旻

私は子供の頃、小学校の歴史の授業で日本は知った。けれども教科にはたくさんの日本に対する否定的な評価が書かれてあった。当時の私は日本は悪い国だと思っていた。私は成長して祖父と話した。祖父はありがとう日本と言った。日本が台湾を統治していた当時日本は台湾で多くの工事を完了させた。祖父は日本の統治はとてもよく、台湾各地でいろいろなものを建設した。そして、それらは今も使われている。この話は小学校の教科書とぜんぜんちがう。祖父の話の中では日本はいい国だ。私はだんだん日本はいい国なのではないかと思うようになりました。

私は高校生の時機械について勉強した。先生は日本の機械はアジアの国の中で一番よいものと言った。それにテレビを見ていろいろな日本の機械や音楽や電器について知った。私は徐々に日本にきょうみを持ち始めた。

これが私が日本へ来る理由となった。

私がはじめて日本へ来たのは大学三年の三月だった。私は日本がどんな国かを見た。みちのよこにじどうはんばいきがあつてまちはきれいだった。私は当時大学を卒業した兄と旅行した。私はこの旅行では京都と北海道へ行った。この旅行のどちゅうで私は日本の工學技術が見えた。台湾の機械より日本の機械の技術のほうがよいと思った。

私の父の会社はショベルのしゅうりと販売をしているので私は日本の新しいショベルとくるまの部品を見たいと思った。これは私が日本へ来た理由だ。そして日本はとてもいい国だ。